# 令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大東小学校 ）　　学校番号　025

| 目指す学校像 | みんなキラキラ　さわやか笑顔の大東小学校を目指して「夢と希望の溢れる学校」「よさを見つけて伸ばす学校」「家庭地域社会と共に歩む学校」 |
|---|---|

| 重点目標 | | |
|---|---|---|
| | １　学びの自律化と個別最適化・探究化の推進による主体的・対話的で深い学びの実現 | （学力向上） |
| | ２　生徒指導体制、教育相談体制の充実と教育環境の整備による安心・安全な学校づくりの推進 | （安心・安全） |
| | ３　地域とともに児童の健やかな成長と安全を見守るコミュニティ・スクールの推進 | （地域とともにある学校づくり） |
| | ４　誰もが働きやすく、一人ひとりが力を発揮することができる教職員集団の醸成 | （教職員の資質向上） |

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| 達成度 | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日　令和７年２月 19 日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | （現状）<br>○全国学力・学習状況調査において、平均正答率は、市と同程度の状況である。<br>○リーディング DX スクール事業の取組を通して、個別最適な学び、協働的な学びを実現する学び方、教え方の研究が進んだ。<br>＜課題＞<br>○解答を記述する問題の無回答率が全国、県と比較して高い傾向であった。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。<br>○「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」等について課題が見られる。ICT の効果的活用を図りながら、各教科の本質や学ぶ楽しさに触れることができる授業改善を行うことが必要である。 | ・思考力、表現力の向上に向けた授業改善 | ○全国学力・学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリングを受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の学力向上を図る。<br>○児童が学習方法を選択しながら、じっくり思考したり、友達と自分の考えを伝えたり、議論したりする活動の充実を図り、思考力、表現力の向上を図る。 | ①調査結果の分析や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定し、実践することができたか。<br>②市学習状況調査において、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率が前年度より向上したか。 | ①「リーディング DX スクール事業」の講師による講演、授業指導を計５回実施した。「学びのポイント『じ・し・や・く』」「個別最適な学び」「協働的な学び」を視点とした授業改善がさらに前進した。<br>②1 月実施の市学習状況調査において、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率は 12 項目中６項目で向上した。 | B | ○今年度の成果に、各教科の本質的な学びである「見方・考え方」をベストミックスした授業スタイルを創造し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を深化させる。<br>○「思考力・判断力・表現力等」を高めていくために、アウトプットできる場の充実を図っていく。 | ○リーディング DX スクール事業の研究では、自他ともに認めるさいたま市のトップである。児童も教員もレベルアップしている。他校もレベルアップできるように、引き続き、大東小学校からさいたま市全体に取組の成果を広めること。<br>○ICT を積極的に活用することはよいが、以前受け取った感謝の手紙の内容がみんな似通っていた。教師が作った文例をそのまま使っているのではないかと感じる。書く力も含め、児童の力をバランスよく育むこと。 |
| | | ・児童が主体的に取り組む個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る授業改善 | ○全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行うことで、児童が自らの学習状況を把握し、目標をもって学習できるようにする。<br>○Teams、ｵｸﾘﾝｸ、Forms、Class NotebooK、Canva、SSDB 等、ICT も効果的に活用しながら、個別最適で協働的な学びの充実、主体的・対話的で深い学びを実現する。 | ①児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。<br>②市学習状況調査において、「ICT を活用した学び」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。 | ①調査後は、担任とともに振り返りを行い、今後の学習について考えた。１月実施の市学習状況調査該当項目において、肯定的な回答の割合は 71.1%であった。<br>②市学習状況調査該当項目において、肯定的な回答の割合は、91.7%であった。ICT 活用状況「ほぼ毎日活用」3～6 年 90.1%（市平均 37.3%）で高い活用状況である。 | A | ○全国及びさいたま市の学習状況調査実施後、速やかに振り返りを行い、児童が自己の学習状況を把握するとともに、今後の学習への取組を考えられるように支援する。<br>○引き続き ICT の文房具化を継続し、発達段階に応じた活用、情報モラルの指導等について研究を進める。<br>○スクールダッシュボードを活用した個別最適な指導・支援を推進する。 | |
| 2 | （現状）<br>○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は 89.8%で全国、県の平均を上回ったが、市の平均は下回った。<br>○昨年度、施設設備の不備等が主な原因と考えられる児童のけがは発生していない。学校管理下のけがで医療機関を受診した件数は３６件であった。<br>＜課題＞<br>○子どもたちの悩みや家庭の状況が多様化しており、一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に適時、適切に支援していく必要がある。<br>○不登校をはじめ、教室に入れない児童の増加に伴い、誰一人取り残さない学びを支援し、保障する体制の整備が課題である。<br>○施設設備の安全点検を確実に行うとともに、児童が自ら危険を予測したり、安全に行動したりする力をはぐくむことが課題である。 | ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援、相談に向けた校内体制、多様な学びを支援する体制の充実 | ○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通して、いじめの認知について共通理解する。<br>○各種アンケート、保護者面談等から得られた情報を基に、SSW、SC 等の専門職、関係外部機関とも連携しながら、迅速かつ組織的に対応する。<br>○児童の多様な学びを支援するために、Sola るーむを活用するとともに、学習支援ボランティアの導入等、持続可能な運営体制を整備する。 | ①学校評価「相談対応」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。<br>②組織的かつ迅速な対応が必要な場合には、ケース会議を開催し、具体的な手立て等を共有して対応することができたか。<br>③Sola るーむの運営体制が整備されたか。また、支援が必要な児童の Sola るーむ活用が十分に図られたか。 | ①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 91%、保護者 89%であった。<br>②定期的に児童理解研修を実施、要配慮児童の情報を共有の上、必要に応じて生徒指導・教育相談部、SC,SSW、外部機関等も含めて組織的、継続的に支援に当たった。<br>③Sola るーむを４名の児童が利用し、３名が教室で授業を受けられるようになった。また、学習支援ボランティアを導入し、現在１名の支援を継続している。 | A | ○いじめについては、全教職員でいじめの定義を共通理解し、積極的に認知を行った上で、迅速、組織的な解決をする。引き続き「いじめ見逃し『０』」の姿勢で取り組む。<br>○「Sola ルーム」を円滑に運用する体制を整備し、要配慮児童への支援を充実させる。<br>○児童が課題を自分事として捉え、主体的に解決に取り組むエージェンシーの育成に取り組む。 | ○いじめについて、児童や学校の取組が理解できた。ＰＴＡとも情報を共有し、連携して対策に取り組み、今後もいじめ見逃し「0」を目指していじめ防止に努めること。<br>○Sola るーむが機能して、有効な支援ができている。これからも体制の整備を推進、児童への支援の充実を図ること。<br>○金融リテラシー教育やケータイ・スマホ安全教室など、お金をスマホで手軽に扱える現代において、必要とされている分野の専門家が来て学ぶ体験はとてもよい。これからも取組を継続して児童の安全意識の向上に努めること。 |
| | | ・安全で整備された教育環境の提供と児童の安全意識の向上 | ○安全点検(日常・毎月)と迅速な修繕(学校対応概ね１週間以内)を基盤に、安全な教育環境整備を進める。<br>○交通安全教室、自転車運転免許講習、避難訓練、引渡訓練、ケータイ・スマホ安全教室、ASUKA モデル、薬物乱用防止教室、金融リテラシー教育等、児童が安全について主体的に考える体験的学びを充実する。 | ①学校評価「教育環境整備」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。<br>②学校評価「健康・安全」に係る項目において肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。 | ①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 93%、保護者 86%であった。施設設備不備による事故０であった。<br>②学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 94%、保護者 95%であった。 | A | ○安全点検(日常・毎月)と迅速な修繕(学校対応概ね１週間以内)を継続し、安全な教育環境整備を進める。<br>○各取組を通して、児童が安全について主体的に考える体験的な学びを継続し、危険を認知、予測し、安全な行動がとれる態度を育成していく。 | |
| 3 | （現状）<br>○学校運営協議会では「あいさつ」「コミュニケーション」が充実するための熟議を継続している。学校、地域、家庭の連携、取組が更に充実するための方策等を検討することができた。<br>○学校、家庭、地域が連携して、多くの地域行事を開催した。子どもたちに地域行事の楽しさや地域のよさを味わわせることができた。<br>＜課題＞<br>○学校運営協議会の充実に向け、委員構成や教職員の参加による活性化、家庭、地域への情報発信による協働体制の構築が必要である。<br>○コロナ禍以降、ＳＳＮ会議や民生委員連絡会の実施ができていない。連携強化を図る必要がある。 | ・持続可能なコミュニティ・スクールの推進 | ○学校運営協議会において、「あいさつ」「コミュニケーション」を向上するための熟議を継続し、持続可能な目標、取組を設定し推進する。<br>○児童会を主体とした校内や小中連携のあいさつ運動、ＰＴＡ、地域、ＳＳＮと連携した教育活動、行事等を実施しながら、児童のエージェンシーを育む。<br>○学校公開、参観懇談、学校行事公開、学校 Web ページ、学校安心メール、YouTube 等、多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」「教育活動」等の情報を積極的に発信して共通理解、連携を深める。 | ①学校評価「あいさつ」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 85%以上となったか。<br>②市学習状況調査「地域」に係る項目において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。<br>③学校評価「学校教育方針」「教育活動公開」において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。 | ①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 87%、保護者 70%であった。児童会を中心にＰＴＡ、中学生、スポーツチーム等と連携して活性化を図った。<br>②市学習状況調査該当項目において、肯定的な回答の割合は、前年度比で+7pt(75%)であった。<br>③学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、前年度比で児童+5pt(90%)、保護者 +1pt(92％)であった。校長講話 Youtube 公開、参観・懇談、個人面談、学校公開実施、学校だより等で学校教育目標及び目指す児童像を積極的に発信した。 | A | ○コミュニティ・スクールについては、引き続き保護者、地域、教職員へ周知を行い教職員の参加を促す。また、学校運営協議会において、児童が発表する取組を継続する。<br>○学校運営協議会で熟議を継続し、「エージェンシー」について、地域で共有できる持続可能な目標、取組について設定し、役割分担、協働しながら取組を推進する。<br>○今年度は多くの機会で保護者、地域の皆様に来校していただいた。この実績をベースに、授業や行事等の公開、情報発信の方法について、工夫改善を継続する。 | ○大人があいさつをして、子どもたちの手本になる必要がある。学校だけでなく、家庭や地域と連携して、あいさつに取り組むこと。<br>○子どもたちは、読み聞かせをする図書ボランティアの方、登校指導をする交通指導員・防犯ボランティアの方など、自分たちに何かをしていただいていることを理解している。これからも様々な場、機会で感謝の気持ちを育む取組を推進すること。 |
| 4 | （現状）<br>○リーディング DX スクール事業指定校として、エバンジェリストを中心に、ICT を効果的に授業で活用していくための研修を自走スタイルで行い、「教育 DX」を推進した。<br>○学校行事や業務改善に活用するためのアイデアを積極的に取り入れ、教職員も参画する働き方改革を進めている。<br>＜課題＞<br>○初めて教職につく教員や経験が浅い教員、異動してきた教員が自信をもって子どもに向き合っていくための支援、研修体制の構築が必要である。<br>○児童の心に寄り添い、認めて、ほめて、伸ばす指導（コーチング）を通して、児童のエージェンシーを育む必要がある。 | ・一人ひとりがスキルアップを図り、力を発揮することができる教職員研修の推進 | ○研修主任、エバンジェリストを中心に自走する研修を推進するとともに、教職員からのアイデアを収集し、授業改善や業務改善に積極的に取り入れる。<br>○初任者研修、年次研修、学校課題研修、指導訪問等を活用して教員同士が学び合う場を充実させる。<br>○授業観察を計画的に行い、年次や経験等に応じ「学びのポイント『じ・し・や・ク』」「キャリア navi」等を基に指導助言する。<br>○「学びの指標」アンケートを実施し、「主体的な学び」「探究的な学び」「ICT の効果的な活用」「基礎的な授業スキル」について、集計シート、チェックシートを活用しながら学習者目線で授業改善に取り組む。 | ①教職員のアイディアを積極的に生かし、年間５つ以上の授業改善、業務改善に向けた新たな取組を実施できたか。<br>②学校評価「教職員研修」において、肯定的に回答する割合が 85%以上となったか。<br>③学校評価「授業改善」において、肯定的に回答する割合が 85%以上となったか。<br>④「学びの指標」アンケートにおいて、第１回（6 月実施）の課題となる項目について、第２回（12 月実施）で改善が図られたか。 | ①「デジタル復命」「集金口座振替」（実施）。「欠席家庭への連絡」「学校外からのチラシ等デジタル配信」（２月中）。教職員の発想を基に業務改善を推進している。<br>②学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、教職員 86%であった。「自走スタイル」の研修が定着した。協働授業づくり、授業提案、相互授業参観、フィードバックが日常的に実践され、学び方、教え方の改善が着実に進んでいる。<br>③学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、教職員 84%であった。<br>④学びの指標アンケート「主体的+0.07」「探究的+0.02」「ICT+0.1」「基礎+0.02」となり、全項目で数値が向上した。 | B | ○本校の特長である ICT を生かした教育 DX（学び方改革・教え方改革・働き方改革）を継続し、児童、教職員にとって Well-being な学校づくりを推進する。<br>○ICT の活用については、人事異動によるスキル、取組の差が課題となるので、次年度以降も ICT 活用研修を充実させ、継続的に学ぶことができる環境づくりを行う。<br>○11 月に研究発表会を開催し、3 年間の研究成果を発表できるよう、計画的、組織的に研究を推進する。<br>○「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を充実させ、年次・経験等に応じて教職員のスキルアップを支援していく。 | ○Teams 等の機能を活用して業務改善が進んでいる。残りのアイディアも実現すること。<br>○教職員が日々の授業研究や研修の中で互いに学び合い、スキルアップできる自走のスタイルはよい。これからも教職員がよい学びをできる協力体制を構築すること。<br>○教職員は、いろいろな業務に日々取り組んでいる。心身の健康が心配である。一生懸命になりすぎると逆効果になることがある。校長は、教職員が元気に働けるような学校経営を心掛けること。 |